

社団医療法人 養生会 月刊発行新聞

かしま

ほっと HOT ほっと hot 通信

ホームページ <https://www.kashima.jp>

かしま病院

検索

スマートフォンをご利用の方は、

QRコードを読み取り、アクセスしてください。

PCサイトと同じ内容がご覧頂けます。



5月号 Vol.364

令和5年（2023年）5月1日発行

■編集/かしま病院広報企画室

■発行/社団医療法人養生会

〒971-8143

福島県いわき市鹿島町下藏持字中沢目22-1

tel.0246-58-8010(代) fax.0246-58-8088

ご意見・ご感想は...

上記住所へ郵便、またはE-mailでお送り下さい。

かしま病院広報企画室まで

kouhou@kashima.jp

卷頭特集

1
令和5年度 社団医療法人養生会
新入職者合同研修 実施報告
総合診療科 新任医師のご紹介

糖尿病のおはなし

『インスリン発見 100周年』
かしま糖尿病サポートチーム3
コラム ひんがら目（191）『基礎疾患のある患者さんの
医療機関への掛かり方に思う』

呼吸器科 部長 山根 喜男

4
ようこそ家庭医療へ！

リハビリPOST

第11回 かしまふれ愛さくら祭りに参加しました！
かしま荘通信

令和5年度入職式

社団医療法人養生会の入職式が、4月1日（土）に執り行われ、
19名の新人が養生会の仲間に加わりました。

卷頭特集

令和5年度 社団医療法人養生会
新入職者合同研修 実施報告

入職式



中山 大 理事長



今年度は、看護師3名、准看護師1名、薬剤師1名、臨床検査技師2名、診療放射線技師1名、理学療法士4名、作業療法士2名、言語聴覚士1名、社会福祉士1名、管理栄養士1名、事務員（医事課・健診課）2名の計19名が入職しました。

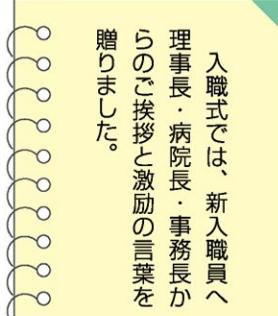
当院の入職式から
新入職者合同研修の様子を写真でご紹介します。



中村 知史 事務長



石井 敦 病院長



入職式では、新入職員へ
理事長・病院長・事務長から
のご挨拶と激励の言葉を
贈りました。

4月1日（土）から4月7日（金）まで新入職員合
同研修を行いました。
新型コロナウイルスが流行した2020年以降は、
入職時の研修の日程を短縮して行っていました。今
度から4年ぶりに1週間の研修期間で行うことができ
ました。

新入職者合同研修



BLS研修

模型を使い、心臓マッサージとAEDを使った蘇生の方法を学びました。



6日間にわたる講義では、病院全体の説明として、事務部、看護部、医療技術部、薬剤部、リハビリテーション部のそれぞれの担当者から業務の説明や実習を受けました。



防火教育研修



消化器や病院の3階から救助袋を使って避難・救護担架を使った訓練を行いました。



4年ぶりの1週間・対面でのオリエンテーションでは、新入職員の皆さんのが仲良く研修を受けている姿が印象に残りました。コロナ前の活気が戻ってきたのだとしみじみと感じました。

同期の繋がりを大切に支え合いながらこれからも頑張ってください。新入職員の皆さんのご活躍を応援しています。



電話対応の仕方について、電話機を使いお互いに話し手・受け手に分かれて練習を行いました。



1日ごとに、研修で学んだこと、大切だと思ったことをグループで模造紙にまとめ、発表し、みんなで共有しました。

接遇研修

研修のまとめ発表

はじめまして、医師3年目の荒井 恵（あらい れん）と申します。

出身は福島県の浪江町で、令和3年に福島県立医科大学を卒業した後、いわき市医療センターで2年間の初期臨床研修を行いました。今

年度、福島県立医科大学医学部地域・家庭医学講座に入局し、4月から総合診療科で専攻医として勤務させていただることになりました。

私が総合診療科・家庭医を志したきっかけは、大学生時代の地域実習と、初期研修期間中の総合診療研修をかしま病院で行つたことです。特定の臓器や疾患に限定せず、患者さんやその家族の心身の健康面、心理社会的な背景など、あらゆる角度から患者さんを「まるごと診る」ことができる家庭医に非常に魅力を感じ、私もそ

のような医師になりたいと思いました。

家庭医を志すきっかけとなつたかしま病院で、初期研修修了後の専門研修のスタートを切ることができ、感慨深い気持ちでいっぱいです。先生方や様々な医療スタッフの皆様から多くのことを学ばせていただき、医師として成長していきたいと思つております。

いわき市での勤務は3年目になりますが、引き続きこれまで以上にいわき市の医療に貢献できるよう、一生懸命励んで参ります。地域住民の皆様におかれましては、診察室の内外を問わず、お気軽に声をかけていただければ幸いです。

まだまだ至らない点が多くあるかと思いますが、これからどうぞよろしくお願い申し上げます。

新任医師の紹介



総合診療科

荒井 恵

○糖尿病のおはなし

かしま糖尿病サポートチーム

インスリン発見 100周年

1 インスリンとは、胰臓から分泌され血糖を下げる働きのあるホルモンです。インスリンの作用が不足している時には、注射で外部からインスリンを補う治療法があります。

このインスリンが発見されて 100 年が経ちました。100 年前は血糖値を下げる事が難しかった糖尿病…。先人のたゆまぬ努力により、今は内服薬やインスリンを組み合わせ共に生きる病へと変化しました。しかし、どんな薬にも副作用があるよう、インスリン注射にも注意しなければならない事があります。その一つが低血糖です。

低血糖の症状

- 発汗、不安、動機、頻脈、手指振戦、顔面蒼白
*血糖値がさらに下がると (50mg/dL 以下)
 - 頭痛、眼のかすみ、空腹感、眠気、意識レベルの低下、
けいれん、昏睡

低血糖が起きた時の対処法

- 症状を感じたらすぐにブドウ糖をとる（5～10g）
 - ブドウ糖を含む飲み物を飲む（150～200mL）
 - 砂糖をとる（10～20g）

*砂糖が効果のない薬（糖の吸収を遅らせる薬など）を内服している方やインスリンと内服薬併用の方はブドウ糖で！

低血糖が起きた時の対処法（つづき）

- 左記の いずれかをとり安静にしましょう。
 - 車を運転している場合はすぐ車を止めて対処しましょう。
 - だいたい 15 ~ 20 分で症状が治まります。
 - 低血糖がおきた時は、いつ、どのような症状だったのかを覚えておき、診察日に主治医に相談しましょう。
 - 低血糖の症状や、治療法について、家族や、周囲の人にも知っておいてもらいましょう。



今は情報があふれており、分からぬこともあります。以前よりは治療に対し不安も少なくなっているかもしません。

しかし、もっと詳しく聞いてみたいと思う事や、もっと自分の生活にあったやり方を知りたいなど 何か疑問・不安に思う事(もちろん嬉しい事でも)があれば気軽にお声かけください。

皆さんの笑顔が増えるようにお手伝いしたいと考えています。

糖尿病サポートチーム
看護師 赤津みのり

基礎疾患のある患者さんの 医療機関への掛かり方に思い

チ治療のことは把握せず肺疾患の診断と治療に邁進され、A先生のことは眼中にないかも知れません。そうなると、診療の本筋がすれていきます。肺の診療が先か、リウマチの治療

患者さんに、「B 医院の結果を A 先生に持ち帰り、A 先生から当科に紹介して欲しかった」と話しましたところ、患者さんは小苦に叱られたと誤解し、「お医者さんのいわれるままに受診したのにこんなことを言われるなんて・・・」と反感を持たれ、最後には涙声になりました。本当にますかったのは、患者さんではなく、B 先生なのですが、そのことが患者さんには伝わりません。賢い医療機

たくてさらに説明する必要があります。

A portrait of Dr. Hinkagara, a man with glasses and a white lab coat, centered within a frame. The frame is flanked by two large, stylized eye icons, one on each side.

先日こんなことがありました。通院しているリウマチの患者さんに新薬を使用しようと考へた整形外科のA先生は、肺に病変がないかどうか確かめるため、CT装置のあるB医院に検査をお願いされました。CTを撮ったB先生は気になる肺病変を見つけられました。B先生は心配になり、急いで呼吸器専門の小著へ紹介状を書かねました。そして、患者さんは言われるままに当科を受診されました。

小著は、詳しく問診をしますので本来の主治医であるA先生の存在を頭に入れた上で検査や治療を考えますが、忙しく診療を

アドバイスが出来ます。最後までの責任を持つてリウマチの治療をしてくださるのがかかりつけ医のA先生です。患者さんにはA先生に寄り添つて治療に邁進して欲しいわけです。小著はそれに協力をするのが務めです。患者さんにとって一番大切な病気が何であるか、それをはつきりと認識し、それに最後まで付き合つてくださる先生がかかりつけ医だと思います。

その先生を中心にして、その先生の不得意な部分は他の専門の先生にお手伝いして貰いながら治療を続けてゆくことが賢い医療の進め方だと思います。

小著は、詳しく述べますので本来の主治医であるA先生の存在を頭に入れた上で検査や治療を考えますが、忙しく診療をされる呼吸器科の先生のなかには、リウマチ

その先生を中心にして、その先生の不得意な部分は他の専門の先生にお手伝いして貰つながら治療を続けてゆくことが賢い医療の進め方だと思います。

(呼吸器科部長 山根喜男)

ようこそ 家庭医療へ!

～いわきに生きる家庭医育成への挑戦～

第159回
「つぶれない店」に学ぶ「つぶれない病院」

石井 敦 病院長



2023年4月16日(日)、TBSの人気番組「坂上&指原のつぶれない店」で、日本食糧新聞社主催の「ファベックス惣菜・弁当とうグランプリ2023」(国内最大級の総菜・弁当のスペシャリストにより構成されたコンテスト)において「デリカ力総合賞」(企業として日本一)を獲得した、いわきが誇るローカルスーパー「マルト」が紹介されました。番組をご覧になった方はお分かりと思いますが、視聴率が重要な民放テレビ特有の大げさな演出もありましたが、マルトさんの一貫した地元愛が余すところなく紹介されていて、個人的には感動すら覚えました。

創業時、弱小企業で素材仕入れに難渋していた際に、見るに見かねた地元の生産者さんが新鮮な食材を提供してくれたおかげで今があること、そのことへの恩義が地元の生産者のサポートにつながる地産地消の美味しい総菜開発の原動力になっていること、これまで多くの人たちの血の滲む苦労があったかと思うと、本当に心に刺さりました。

さて、かしま病院はどうでしょうか? 開院時、弱小病院が

故に様々な苦労があったことは、先代の理事長や院長、看護部長、事務部長らから伝え聞いています。そんな際に見るに見かねた地元住民の皆様、商工会の皆様、金融機関の皆様、地域診療所の皆様が、法人の理念である「地域医療と全人的医療の実践」のために手を差しのべてくださったおかげで今があること、そのことへの恩義をこれまでよりももっとも地元住民の皆さんへお返しする必要があること、これまで多くの人たちが血の滲む苦労をしてきたと思うけれど、もっと効果的な苦労の仕方がなかったか? 本気で考える機会を得ることができました。

突き抜ける地元愛で日本一の称号を獲得されたマルトさんは、まぎれもなくいわきの希望です。僭越ながら、かしま病院もマルトさんのように、日本一の地元愛あふれる病院、つぶれない病院として成長してまいります。

かしま病院では、2008年度から家庭医を志す研修医や地域医療実習を行う医学を受け入れています。このコラムを担当する石井敦病院長は日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医として、研修医・医学生の指導を行っています。

リハビリ POST

第146回

リハビリテーションについて
新人紹介

今 回はリハビリの基本的なことについてお話をさせて頂きます。初めにリハビリと聞くと単に専門職による機能回復訓練ととらえる事が多いと思いますが、リハビリとは、「機能回復訓練を通して病気やケガなどで障害を抱えてしまった方が再びその人らしい生活を取り戻し、豊かな人生を送るように支援していく」ということが目的です。そして支援する各専門分野のスタッフとして、理学療法士(PT)・作業療法士(OT)・言語聴覚士(ST)の3職種が存在します。各分野の説明については今度またご説明させて頂きます。

また、リハビリを受ける場所については保険制度によって違いが

あります。医療保険では主に病院が多く、介護保険では施設(老人保健施設・デイサービスなど)や自宅(訪問リハビリ)となっています。そしてリハビリテーションを行うに当たってはリハスタッフの他に医師・看護師・ソーシャルワーカー・栄養士などと連携をとつてチームを組み、チームでカンファレンスなどを行なながら治療の方向性を決めています。リハビリを行う方にとっては思いがけない病気やケガにより、精神的な落ち込みが見られることが多く、それらを解決するためにそれぞれの専門分野で親身に寄り添いサポートします。リハビリで分からない事がある場合は気軽に私たちに相談して頂ければと思います。

また、今年度もかしま病院にリハスタッフとして新たに7名の新入職員が加わりました。
よろしくお願いします。



作業療法士 佐竹 夏帆

かしま荘通信

お花見

3月29日(水)、31日(金)



今年は桜の開花が早く、3月下旬にお花見に行ってきました。桜並木を目になると「綺麗だね~」とあちこちで歓声が!風は少し冷たかったですが、満開の桜を見て春の季節を感じることが出来ました。

第11回「かしまふれ愛さくら祭り」に 参加しました!

当院は、医療健康相談・救護室の担当として参加しました。



ブースでは、救護対応の他に血圧測定や体幹バランス測定を行い、多くの人が体験して下さいました。

大きなケガの対応もなく、無事に終えることができました。